

水の学校

2015年度「水の学校」連続講座の様子

1 開校式～もっと知ろう武蔵野の水、考えよう水とくらしの深い関わり ファシリテーター：橋本淳司氏(水ジャーナリスト、アクアコミュニケーター)

「むさしの水クイズ」によるオリエンテーションの後、参加者自身が水のしずくになって、地球上の水循環を体験する「みずたび」や上下水道料金の成り立ちをグループワークで探る、「正当な価格」というアクティビティを行いました。

受講生の感想

- ・水の「循環」という考えを知り、毎日使っている水の大切さを実感した。
- ・水道管のコストの問題は奥深かった。
- ・みなさんと一緒に考える時間が楽しかった。



2 使った水はどこへいく？ ～三鷹市東部水再生センター・小平市ふれあい下水道館 協力：三鷹市水再生課、小平市ふれあい下水道館

武蔵野市には市内に大きな川がないため生活排水は都の水再生センターで処理しています。三鷹市東部水再生センターでは、汚水の処理工程を追いながら、仙川への放流口まで順に見学しました。小平市ふれあい下水道館では、地下5階(地下25m)にある内径4.5mの本物の下水道管内部に入って見学しました。

受講生の感想

- ・下水処理の役割について、重要性について、再認識させられました。
- ・微生物のチカラに仰天しました！



3 武蔵野の水はどこから？ ～水を育む森の「むかし道」を訪ねよう 協力：奥多摩町観光産業課

武蔵野市の水源地のひとつである奥多摩町を訪問し、旧青梅街道の一部にあたる「むかし道」を散策。市の水道水は、約8割が市内の井戸から汲み上げた地下水でその一部は奥多摩の森に降った雨が地中にしみ込んだもの。約40年をかけて武蔵野市までゆっくりと流れてきています。

受講生の感想

- ・自然の中での水循環だけでなく、人々のくらしの歴史を感じることができました。
- ・生命に重要な水が貯えられている森林のすばらしさを感じました。
- ・水がずいぶん遠くから飲まれにきていると思うと大変心苦しくなりました。



4 武蔵野を支えた水の力～水車見学と地粉うどん 協力：三鷹市生涯学習課、武蔵野商工会議所、大むら

江戸時代からの水車経営農家を保存・公開している三鷹市の水車「しんぐるま」を見学。回転する水輪に、白や杵を連動させて製粉・精米の実演を行う特別公開日に講座を実施しました。武蔵野地粉うどんを提供している「大むら」では、市内での小麦栽培や地粉うどんの特徴などをうかがい、うどんを味わいました。

受講生の感想

- ・水車のメカニズムに圧倒されました。
- ・水車の認識を変えなければ、すばらしい。
- ・地粉うどんがとってもおいしかったのでまた食べにきたい。



5 武蔵野の小さなでこぼこをあるく ～水害の理由とわたしたちができること 講師：平田英二氏(やとじい)

武蔵野の微地形に詳しい平田英二さんを講師にお招きし、武蔵野の地形の成り立ちや水害の理由を解説いただき、吉祥寺北町を歩きました。凹地(くぼち)のような周囲より低い土地には、降雨時に雨水が集まります。まちあるきの後は、「凹地とのつき合い方」についてアイデアを出し合いました。

受講生の感想

- ・武蔵野市に坂があることを初めて知った。
- ・凹地の問題ひとつとっても様々な考えがあり興味深い。
- ・凹地のなりたちについてよくわかりました。



6 最終講座・修了式「水の学校」から始める武蔵野の水の未来 ファシリテーター：橋本淳司氏(水ジャーナリスト、アクアコミュニケーター)

今後の「水の学校」の取り組みや個々の活動へとつながるよう、似た関心をもった参加者同士でグループを作って、「もっと知りたい、学びたいテーマ」を共有しました。雨水を活かす方法、仙川に親しむ取り組みなど、やってみたいことや深めていきたいことを発表しました。

受講生の感想

- ・もう終わってしまった！楽しい時間はあっという間。自分の中でテーマを作って遊びながら調べたい。
- ・やってみたいことや知りたいことを同じテーマで考え、意見の言える仲間がいることを発見できた。
- ・色々な方と色々な意見交換ができ、水について考える機会を設けて頂いて、本当に楽しい学校だった。

